

# カラスが見た虹

たにぐちひでお 作

## CAST

カー吉

ミネコ

ジェミコ

ミニコ

長老

カラス2

カラス3

カラス4

カラス5

チュウ助

牛ドン

虎蔵

ウサコ

タツちゃん

ニヨロニヨ

馬之助

メーコ

サルやん

コケコ

ワン公

ドッシン

## STAFF

照明

音響

大道具

小道具

## 序章 カラスの儀式

ト 暗闇。

カラスのけたたましい鳴き声が響きわたる。舞台には鬱蒼とした森の中が薄ぼんやりと浮かび上がる。樹齢何百年、いや、何千年という杉や檜がその幹だけを見せて立ち並んでいる。その木の根元には祠が祀られている。生い茂った木の葉や、からまりあった蔦にさえぎられ、辺りは昼間でさえ陽が当たらない。もしかしたらそこは熊野の奥深い山の中かもしれない。

ト どこからかなにやら怪しげな音楽が……。そしてそれとともに物々しい行列が登場する。先頭には御輿、その上にはその一団の長老らしき人物が座っている。それにしても、彼らの格好はまるでカラスのようだ。一行は舞台上上がると祠の前に陣取り、長老らしき人物を中心になにやら儀式を始める。そして、やがて儀式も終わった。

長老  
カラス2  
さあ、これで今年の儀式も終わりじゃな。  
これでほっと一安心じゃ。

ト 長老を中心とした人たちは満足そうにうなづいている。

ト 少年達はやっと解放されたと言うように……

少年1  
少年2  
少年3  
カラス3  
少年4  
あああ、やっと終わったわあ。  
ほんまやあ、くたくたやわあ。  
(立ち上がるうとして) あいたたた、足しびれて立てんげえ。  
これ、何を罰当たりなこと言うてるんじゃ。  
そんなこと言うても、足痛て痛て……。

少年5  
少年たち  
まったくや、何でこんなしんどいこと、毎年毎年せなあかんのやろなあ。  
そうやわ。ほんまや。もういやわ。しんどいわ。えらいわ。

ト 少年たち、口々に不平不満を並べ立てる。

カラス4  
おまえたち、この儀式をなんやと心得とるんじゃ。この儀式は  
のお、我ら熊野の神々に対する感謝の……。

ト 突然、あたりに雷鳴が響きわたる。  
少年たちはびくくりしてうずくまる。悲鳴を上げるものもいる。  
そして、ものすごい雨が降り始めた。

少年6  
少年7  
少年8  
少年9  
少年10  
少年11  
少年12  
少年たち  
ああッ、雨降ってきたあ。  
うわッ、どえらい降ってきたげえ！  
このままやったらビショビショになるなあ。  
あほう、もうビショビショや！  
おい、もうはよ家へ帰ろら。  
そうしようそうしよう。  
そしたら長老様たち、僕らはこれで帰らせてもらいます。  
さようなら。失礼します。うわあ濡れるう。冷たいい。

ト 少年たち、口々に叫びながら家路につく。

ト 少年たちを見送る長老たち。ふと自分たちも濡れているのに気づき祠の下に雨宿りする。

カラス5 まったくえらい雨になったもんやなあ。  
カラス2 ゆうべの天気予報では雨らて言いなかつたのに・・・。  
カラス3 まあ、ほんでも、儀式が終わつてしもてからでよかつたのお。  
カラス4 そういえばそうじゃ。よかつたよかつた。

ト 一同、安堵したようにうなづきあう。

カラス5 それにしても、我らのこの儀式も、年々寂しくなるばかりじゃのお。  
カラス3 本当にそうじゃなあ。なんとかして村の活気を、以前のように取り戻したい  
もんじゃ。

カラス2 長老様、長老様はどう思います。  
長老 うーん、なんとかせねばならんがあ、それにはあ、若い世代の力が必要じゃ  
ろうのお。カー吉やあの子たちのような、若い世代の力がお。  
のお、カー吉。

ト 先ほどから長老たちの一団の脇に控えめに座っていた少年のカラスが長老たちの前に出る。  
どうやら名前はカー吉と言うらしい。

カー吉 はい、長老様。実はそのことで、僕にいい考えがあるんです。

長老 いい考え？ して、それは、どんな？

カー吉 まあ、僕に任しておいてください。

カラス4 おいおいカー吉、あんまり無茶をするんじゃないぞ！

カー吉 だいじょうぶですよ・・・あれ？

ト いつのまにか猫の姿をした少女が立っている。

ト 赤い傘を差しているその子は、カー吉たちの方に向かってやってくる。

カー吉 誰やろなああの子？ 長老様、見かけん子があっちから来ますよ。

長老 んん？ おお、そうじゃった、そうじゃった。おーい！

ト 長老、猫の少女を手招きする。

長老 ちよつとこつちへおいで。カー吉、この子はお、今度この村に引っ越して  
きた猫の娘じゃ。おまえとは年齢好も同じくらいじゃから、仲良くしてやっ  
てくれ。  
カー吉 へー。

ト カー吉、猫の方を見て、

カー吉 君、名前はなんて言うん？

猫 ミネコです。よろしく。

カー吉 ふーん、ミネコって言うんか。僕はカー吉って言うんや。仲良うしような。

ト カー吉、シャツでゴシゴシ手をふいてから右手を差し出す。  
ミネコも少し恥じらいながら右手を差し出す。

カー吉 そうや、明日の朝、おまえもここへ来いよ。ええこと考えついたんや。絶対  
やで。さーあ、急がしなるぞお。よし、はよ帰って明日の準備しよう。  
そしたら、長老様、お先に失礼します。

ト カー吉、雨の中を走り出す。

カラス2 失礼しますって、おいおいカー吉、そんなに慌てんでも雨やんでから帰った  
らええやないか。風邪引くぞお！

カー吉 大丈夫ですよおッ！

カラス3 大丈夫ですよって、なんぞは風邪ひかんで言うから風邪は大丈夫やるけど、

またなんかしでかすんやないやるなあ。それの方が心配じゃ・・・。

長老 まあ、任せてみるとしよう。さて、雨も少し小降りになつてき

たみたいじゃ。我々も帰るとするか。

ト 一同退場

暗転

## 第2章 十一文再編成マラソン

ト 雨上がりの明るい朝、のイメージの音楽。  
牛登場。

牛 — あゝあ眠たいなあ。

ト 祠の前までやってきて、何やらキョロキョロ辺りを見回している。  
誰かを捜しているのだろうか。

牛 — なんなあいつ、まだ来てないんか。

ト 誰もいないとわかると、少しため息をついて祠の前にどっかと座り込む。

ト 続いてネズミ登場。牛と同じようにあたりをキョロキョロ見渡している。

牛 おくい、チュウ助やないか。どしたんな、こんなところで。

チュウ助 おお、牛ドン。おまえこそどしたんな。こんな朝はよからこんなところへ座  
り込んで。

牛ドン おうよ、それなんや。(ト 立ち上がる) 実はな、カー吉の奴がこの祠の前  
で待つとけて言うもんやからな。

チュウ助 エッ、牛ドンもか？

牛ドン もかって、ほんだらお前もカー吉に呼び出されたんか。

チュウ助 そうなんや。いったい何のようがあるって言うんやろ。

牛ドン ほんまやなあ。

ト 二人ともその場に座り込む。

ト そこへワイワイガヤガヤとうるさい一団がぞろぞろと登場。  
メンバーは、虎・兎・龍・蛇・馬・羊・猿・鶏・犬・猪。のように見える。

羊 あれえ、牛ドンとチュウ助も来たあるわ。

虎 おーい、お前らもチュウ助に呼び出されたんか。

チュウ助 お前らもって、虎蔵はん、ほんなら、やっぱりみんなもカー吉に呼び出され  
たんか。

虎蔵 そうなんや。まったくあのガキヤ、えらっそうにこんなとこまで呼び出し  
さって、一体何の用があるって言うんや。

牛ドン それや。それを今も二人で話しとったんや。

龍 しかし、ええ迷惑やで。こんな朝早よからよお。ワシさっきからもう目シバ  
シバやで。

鶏 ほんまに眠たいなあ。ああくあ、あくび出てきたわ。

ト 一同、カラスの文句をブーブー。

ト そこへカー吉登場。何やらはりきった様子。

カー吉 あくえらい雨やったなあ。一晩中降り続いたもんなあ。

ト みんなが集まっているのに気づき

カー吉 おく、みんなもう集まったんか？ 昨日はえらい雨やったなあ。

猿 ほんまにすごい雨やったねえ。僕もうビショビショになって風邪引きそうに  
なったわ。

ト 脳天気な顔をした猿がカー吉に相槌を打つ。

そこへ犬が出てきて、その猿の頭をこづきながら・・・。

犬 こらッ！ そんな話はどうでもええ！

虎蔵 そうじゃ、こらカー吉、えらっそうに人を呼びだしといてなんの用なんや。

猪 こんな朝早よから。

全くやわ、見てみい、タツちゃんなんかもう目シバシバやぞお。

ト 龍はタツちゃんというらしい。わざとらしく目をシバシバさせている。

カー吉 おいおいそんなに怒るなよ。それよりみんな、気いついたある？

ほら、あそこへ虹出たあるぞお。

ト カー吉、彼方の空を指さす。

一同、カー吉の声に誘われて、指先の空を眺める。

一同 ああッ、虹やあッ！

ト 音楽スタート。一同虹に見とれている。

ネズミ きれいやなあ。

猪 ほんまやあ。

虎蔵 — おっきいなあ。

ト 一同しばらくきれいな虹を眺めている。

ト 虎蔵、突然我に返ったように

虎蔵 おいおいカー吉、お前まさか、虹見るためにこんな朝早よから、ワシら呼び出したんちゃうやろなあ。

タツちゃん おいおい勘弁してくれよう。

ト カー吉も我に返り・・・。

カー吉 おお、そうやったそうやった。

猪 そうやったそうやったやないで。

鶏 そうやわ、だいたいあんた、人呼び付けといて、自分は遅れてくるてどういうことなん。

一同 そうやそうや！

ト 一同、えらい怒ってる。

カー吉 まあまあそう怒るなよ。実はな、今日みんなに集まってもうたんはええこと考えついたからなんや。

蛇 ええことって、何？

カー吉 まあまあ、そうあわてるなよ。誰か、このええことと何かわかるか？

猿 なんかええもんでも食べさせてくれるんかなあ。それやったら、バナナがえ

えな！

ト 間拔けな顔しながら答える猿の後ろに犬がやってきて、猿の頭をこづく。

犬 あほおッ！ バナナ食べるんのどこがええことや。どうせ食べるんやったら肉の付いた骨の方がええやないか。

兎 そんなイヤや。それやったらニンジンの方がええわあ。ねえ、馬之助。ウサコの言う通りや。ニンジンの方がええぞ。

馬之助 (あきれたように) ちよつとちよつと、おまえらのええことで、食べることしかないんか。次元が低いなあ。

カー吉 ほんだらええことって何よ？

羊 うん、それはな、一大ビッグイベントを考えついたんや。

カー吉 一大ビッグイベント？

一同 そうや、一大ビッグイベントや。

カー吉 一大ビッグイベントで、餅つき大会かなんかやるん？

猪 餅つき？ 餅つきのどこが一大ビッグイベントやねんな？ 一大ビッグイベントって言うたらやつぱり、Hビデオの鑑賞会やで！うわあ、こいつエッチ

虎蔵 やよ。そんなん持ったあるん？

猪 なに言いやるんなよ。おまえもこの間貸してくれて言いやったやないか！

ト えらいもめている。

蛇 もう、あほなことばかり言わんといてよお。ねえ、カー吉君。ヒントちよ

カー吉 ヒントかあ。ヒントはなあ、今日来たあるメンバーや。

サルやん  
おい、サルやん。今日来たあるメンバー言うてみい。  
ええつとお、今日来たあるのはあ、ボクとお、あいつとお、あの子おとお、  
この子おとお、それから・・・。  
こらこらこらこらッ！

ト またサルの頭をどつく。どうやら犬猿の仲らしい。

犬  
それやったらなんにも説明にならんやないか。  
カー吉 そうや。このままやたら誰が誰かわからんから、観客のみなさんにもわかる  
ように誰か説明したつてよ。

羊  
ハイ、私が説明するう。えつへん。えーつとお、まずネズミのチュウ助君  
に牛の牛ドン、虎の虎蔵さんに兎のウサコ、こつちが龍のタツちゃんて次が  
蛇のニヨロニヨロ。それから馬の馬之助君で私は・・・  
いやーん、自分で自分のこと言うのはずかしい。

ウサコ  
あんた、なにブリッコしやるんよお？ よし、続きはアタシ私が言うたる  
わ。羊のメーコちゃんに猿のサルやん、鶏のコケ子に犬のワン公、最後が猪  
のドッシン。

カー吉  
そうや、その通り。よくできました。今日ここに集まってもろたのは、鼠、  
牛、虎、兎、龍、蛇、馬、羊、猿、鶏、犬、猪や。

サルやん  
もつと簡単に言うたらあ、子丑寅卯龍未馬申酉戌亥や。世間ではこれを十  
二支て言うなあ？  
ねえねえ、十二支てなに？

ト サルやんがまた出てきて不思議そうに聞く。  
するとまたワン公が出てきて、またまたサルやんの頭をどつく。

ワン公  
おまえアホやなあ、十二支も知らんのか？ 十二支て言うたら、干支のこと  
や！

サルやん  
ええー？ 干支つてなによ？

ニヨロニヨロ  
干支つて言うたら、今年はなに年ですとか、私はなに年生まれですとか言う  
あれやん。

メーコ  
そうそう、那智山の絵馬にも描いたあるし、年賀状のイラストにもなったあ  
るわ。

サルやん  
あー、あれか。

ト サルやん、やつと納得がいった様子。

タツちゃん  
ほんでその十二支が一大ビッグイベントとどんな関係があるんなよ？  
カー吉 その一大ビッグイベントとはな・・・。

ト カー吉、もったいつけてみんなをじらす。

みんなは待ちきれないようにカー吉に詰め寄る。

カー吉はそんなみんなから離れるように五歩歩く。

カー吉  
十二支再編成マラソンや。

一同  
十二支再編成マラソン？

カー吉  
そうや、十二支再編成マラソンや。どうやおもしろそうや。

ト カー吉、胸を張っている。満足そう。

一同、あつけにとられる。首をかしげる

コケ子  
十二支再編成マラソンて、一体どういことよ。

カー吉 ー そやからあ、もう一回十二支を決め直すマラソン大会を開催する訳や。

ト ー 一同、またもあつけにとられている。「あほらしい」という顔  
しばらく間をおいて、虎蔵がいかにも頭にきたという顔つきで……。

虎蔵 ー あーあほらし。こんな朝はようから人呼びつけといて、いったいなにが始ま

るんかと思たら、はッ、十二支再編成マラソン？

なんじゃそら！

あほらしてことないやないか。

それにしてもカー吉、お前一体何でそんなこと考えついたんや。

そう、それや。よう聞いてくれた。

カー吉  
馬之助  
カー吉

ト ー カー吉、姿勢を正して

カー吉

古来、我らカラス一族は、この熊野三山の神々の使いとされて、かの神武天皇東征の折りには、その案内役まで仰せつかったという、由緒正しい動物であつたはずや。その由緒正しき我らカラス一族がどうして十二支の中に入つてないん？おかしいと思わん？

ト ー 一同、「何を言うとするんやこいつ」という顔。

ドッシン

あのなあ、カー吉。おまえ若いからちゃんと知らんやろけどな、だいたい十二支で言うんわなあ、その昔、我々の御先祖様が神様の前でマラソン大会を開いて、その順番で決定したもののなんや。もう今更変えられるかあ。

カー吉

そこが問題なんや。その昔、神様が十二支決めるて言うてマラソン大会開いたやろお？ それで今の十二支が決まってもたわけやけど、そのとき、我

がカラス一族の御先祖様は、神様の使いで遠くの国まで行って留守にしとつたらしいんや。だからその時のマラソンには出れんかった。僕の御先祖様は出てないの。

ト ー カー吉、胸を張っている。「どうや」という顔。

ニヨロニヨロ

そやから、もういっぺん決め直すつて言うん？

カー吉

そう。

ト ー カー吉、大きく頷く。

タツちゃん

あーあ、眠たいのがようけ眠たあなつてきたわ。もう、こんな奴ほつといて早よ帰ろらよ。

ト ー タツちゃん、ますます眠たそう。

カー吉

まあ話は最後まで聞けよ。だいたいな、あのマラソン大会は無効なんや。

チュウ助

なんで？

カー吉 ー チュウ助、お前の先祖のせいや。

ト ー チュウ助、戸惑った顔

メーコ

あ、わたし知つたあるう。チュウ助君の御先祖様のネズミはあ、十二支決めるマラソン大会があつた時、自分で走らんと、そこに居る牛ドンの御先祖様の背中に乗つて行つたんやよねえ。ほんでゴールの前まで来たらひよいつ



チュウ助  
コケ子

て飛び降りてって、自分が先に駆け込んで一番になったんやあ。  
・・・。

ああああ、その話やったらアタシも知ったあるわ。でもそれだけとちやうでえ。チュウ助君の御先祖様はその時、猫にもマラソンのこと連絡しとけて神様に言われたあたんや。そやけど、自分が一番になりたいから猫に嘘の連絡したんや。

ふうん、そやから今でも猫はネズミを追い回しやるんか。

馬之助  
チュウ助  
カー吉

ちよ、ちよっと待ってよお。そんな昔のことほじくり出してきて文句言うわんといてよ。そんなことみんなもう忘れたあるやん。おまえが忘れたあても、相手の猫の方はその恨み忘れてないんとちやうか？ 見てみい。今日もさつきからあそこで・・・。

ト 猫の鳴き声。

チュウ助

あッ、やばいッ、猫やあッ

ト チュウ助、牛ドンの後ろに隠れようとする。  
ト いつのまにか、ミネコが物陰に立っていた。

カー吉  
ドッシン  
カー吉  
ミネコ  
チュウ助

おい、ミネコ、こつちへ来いよお。  
おいおいカー吉、あの子誰なよ、俺にも紹介してくれよ。  
うん。みんなにも紹介するわ。ミネコって言うんや。今度こつちへ引っ越して来てんとお。  
こんにちは。  
フ、フン。ね、猫らこわないわあッ。それにしても、さつきから聞きやった

虎蔵

ら人の御先祖様のこと無茶苦茶言うてよお。そんなに言うんやったらもう一回マラソンやったらやないか。  
しやらないなあ。よっしゃあ、ほんだらもう誰にも文句ないようにもう一回ここでマラソン大会開こら。

ト  
カー吉  
サルヤん

チュウ助や虎蔵までそう言うので、一同もやろうやろうといい始める。

ほんだら決まりや。コースはあの山のとっぺんの折り返しやで。  
よーし、行くぞお。

ト サルヤん、さつそく走り出そうとする。  
そしてまたもワン公が出てきてどつく。

ワン公  
カー吉  
ドッシン  
ウサコ

こらッ、まだ「よーいドン」してないやないか。  
そうや、それに準備体操もせなあかんわ。  
ええッ、準備体操らするん？  
なんか体育の授業みたいやねえ。  
ト ブツブツ言いながらも、一同、準備体操を始める。

虎蔵

よーし、そろそろええやろ。ええかあ、行くぞお！

長老

よーい・・・。  
ちよっと待てえッ！

ト 突然の大声に、スターとしようとしていたみんなは氣勢をそがれる。  
長老ほか、カラス2、3、4、5が現れる。

えらい怒っているようである。

長老  
カー吉  
お前たち、そこで何をしておるんじゃない！  
はい、長老様。十二支再編成マラソンです。

ト  
カー吉、胸を張って自慢顔。

長老  
メーコ  
なに、十二支再編成マラソン？  
そうです。もう一回十二支を決め直すんです。  
ばかもんツ！

ト  
長老、怒りが頂点に達したのか、持っていた杖をたたきつける。

カラス2  
ドッシン  
カラス3  
カラス4  
カラス5  
カー吉  
長老  
誰がそんなこと言い出したんじゃ？  
カ、カー吉が言い出したんです。  
あーあ、やっぱり心配したとおりじゃ。  
全く、ろくなことを考えやせんわ。  
そうじゃ、だいたい神様が決めた十二支を、おまえたちで勝手に決め直せるわけがないじゃろうが。この罰当たりめらが。  
でも長老様、こいつらばかり目立って、カラスの僕らなんか、世間から忘れ去られているようで悔しかつたんですもん。  
そこが馬鹿者だと言っただけじゃ。確かにワシは昨日、お前たち若い者の力が村に活気をもたらすと言った。お前に任すとも言った。じゃがの、お前ならもう少しましなことを考えろと思っただけ。お前は自分が目立ちたいとか有名になりたいとか、そんな気持ちだけでこれを考えついたんじゃろ。

カー吉  
長老  
カー吉  
長老  
一同  
そんなことは……。  
のお、カー吉よ。おまえたち若い者には、そんなことよりもっと大切なことがあるはずじゃ。見つけなければならぬ何かがあるはずじゃ。  
見つけなければならぬ何か？  
そうじゃ。他のみんなも同じじゃぞ。  
はい。

ト  
一同、うなだれる。

カラス3  
一同  
さあ、もうこんな馬鹿なことはやめて、向こうで別なことをして遊びなさい。  
はい。

ト  
一同、ぞろぞろ引き上げていく。

カラス4  
カー吉  
カー吉もここでよく反省して、二度とこんな馬鹿なことをするんじゃないぞ。  
はい。

ト  
渋々うなづく。

長老  
さあて、ワシらも帰ろう。

ト  
うなだれているカー吉の肩をポンポンとたたいて、長老たちも退場。  
カー吉が一人になった。

### 第3章 虹の思い出

カー吉 あーあ、「もっと大切なもの」「見つけなければならぬ何か」かあ。  
なんなんやろなあ、それ。

ト カー吉仰向けに寝っ転がる。

ト 音楽。

ト そこへミネコがやってきた。

ミネコ カー吉君。  
カー吉 あー、ミネコか。

ト カー吉、起き上がる。ミネコ、その側に腰を下ろす。

ミネコ 残念やったねえ。十二支再編成マラソン。張り切ったあたのに。  
カー吉 もうええよ。こっちこそ悪かったなあ、こんな朝早うから呼び出して。  
ミネコ ううん、楽しかったわ。：：私ね、猫はネズミを憎んでるって言うけど、  
カー吉 私はもうそんなこと、もうどうでもええんや。  
ミネコ ふうん、なんで？  
カー吉 なんかそんなことよりもね、欲しいものあるんや。  
ミネコ ふうん、それどんなもんなん？  
ミネコ あッ、虹や！

ト 突然立ち上がって叫ぶ。ミネコの指さす方向には、大きな虹がかかっている。

カー吉 あー、ほんまや、大ツきい虹やなあ。

ト 二人しばらく虹に見惚れている。そして、虹に目をやったままミネコがしゃべりだした。

ミネコ 私ね、ちっちゃい頃、あの虹の橋の根っこの所掘ったら、なんかすごい宝物  
カー吉 が埋まったあるって信じ込んだあてん。そやから、虹が出たら、いっつもそ  
ミネコ のほうに向かって走って行きやってん。  
カー吉 ふうん、なんかロマンチックな話やなあ。  
ミネコ やっぱり、バカみたいやと思う？  
カー吉 そんなことないよ。  
ミネコ ほんま？  
カー吉 あーほんまや。  
ミネコ よかった。昔から、誰に言うても馬鹿にされるから、もうあんまり人には言  
ミネコ わんようにしやってん。

カー吉 ボクもな、昔から虹見たら追いかけて行きやったんや。  
ミネコ ええっ？

ほら、空をこう飛びやったらな、下の方ではスズメが田んぼの上をチュンチュン飛びやるやろ？ そしたらなんか、「へーッ、ここまで来てみい」って言う感じで気分ええんやけど、ちよっと上を向いたら、今度はトンビのやつが気持ち良さそうに上の方を飛びやるんや。「ええなー、ボクも上に行きたいなあ。」と思って何とか頑張っってそこまで行けたんや。気持ち良かったな

あ・・。そしたらな、今度は遠くのほうにでっかい虹がかかったあるのが見えたんや。「あの虹の向こう側で飛べたら気持ちええやろなあ」て思ったら、行きとって仕方ないようになってそっちのほうに飛んで行ったんやけど、そこまで行かんうちに虹は消えてしもた。  
ふうん。  
それからも虹を見るたんびに追いかけてみるんやけど、まだ一回も虹までたどり着いたことないわ。  
そうか、ほんだら、同じように二人とも虹を追いかけて行きやってんね。  
そうやな。・・・そうや。今からあの虹を追いかけてみよか。  
うん！

ト 二人で虹のほうに歩いて行こうとしたところで虹が消えていく。

ミネコ ああつ、虹が消えてくーつ。  
カー吉 あッ、……あくあぁ。また消えてしもた。

ト 二人、その場に座り込む。

カー吉 まあええわ。また今度や。今度でたときはきつと捕まえて見せるわ。  
ミネコ ほんだらその時、虹の根っこ掘るのも手伝ってくれる？  
カー吉 あーええよ。  
ミネコ ほんま？  
カー吉 あー約束する。  
ミネコ スコップもって行かなあかんねえ。  
カー吉 そうやなあ。

#### 第4章 ジェミニニ登場

ト 十二支達が戻ってくる。

ドッシン おいおい、仲ええやないか。  
猿やん ほんまやー、ええなー、カップルになったあるう。  
カー吉 なんなよー、変なこと言うなよ。

ト 二人離れる。ミネコは舞台上手へ。

虎蔵 フン、お前のせいでわしらまで怒られて気分悪いのに、自分はこのんきなもんやなあ。  
ウサコ そうやわ、あんたが十二支再編成マラソンしようららて言い出すから怒られてんでー。  
カー吉 ゴメン、反省しやるよ。  
ドッシン 反省しやるよて、その割には女の子とイチャイチャして余裕あるやないか。  
カー吉 そやから、そんなとちやうて言いやるやないか。

ト そこへジェミニ登場

ジェミニ あなたたち、そこで何をしてるの。(二人声を揃えて)

ト ジェミニとミニコはバリバリの東京弁でやって下さいね。

ドッシン なんなんなんこいつら。(ト 少しびびっている。)

虎蔵 おいッ、おまえらにもんな？ (こいつも少しびびっている)  
ジェミニ わたしたち？ 私たちの名前はジェミニ。(二人で)  
ミニコ ねえー、ジェミコさん。  
ジェミコ ええー、そうですわミニコさん。  
ジェミニ ジェミコとミニコ、二人あわせてジェ・ミ・ニ。(二人で)  
ミニコ ですわよねえー、ジェミコさん。  
ジェミコ ええー、そうですわミニコさん。

ト 一同、ジェミニたちの妙なノリに圧倒される。

虎蔵 なんないつら、頭おかしいとちやうか。

ト 一同虎蔵の言葉に頷きあい、首を傾げあう。

ミニコ ところでもう一度お尋ねしますが、あなた達さつきからそこで何をしておいでですか？

虎蔵 そうやそれや。このカー吉のガキがよおー、なんかわけのわからんこと言い出して十二支決めなおそららって言い出したんや。

ジェミコ 十二支？

サルヤン ええーッ、あんたら十二支も知らんのお？ アホやなあー。

十二支で言うたらねえ・・・。

ト さつきまで自分も知らなくせに、やけに自慢顔でしゃべり始めるサルヤン、しかし・・・。

ミニコ 子・丑・寅・・・とか言うあれのことですかしら？

サルヤン ーなあんな、知ったあるんか。

ト いかにも残念そうなサルヤン。またもワン公にどつかれる。

虎蔵 その十二支を決め直すマラソン大会をしようらって、こいつが言い出したおかげで、俺らまで長老様に怒られたんや。  
ウサコ そうや、カー吉君が悪いんや。

ト みんなも、思い出したかのようににえらい怒っている

ジェミコ あらあらそうでしたの。

ミニコ それにしても十二支とは、あなた達も流行おくれねエ。ねージェミコさん。

ジェミコ ミニコさんの言う通りですわ。野蛮ですわねー。

ジェミニ 汚らしいですわよ。

ジェミコ ねえええ！(二人で)

ジェミニ 今ほもう十二支なんて世の中の人はほとんど覚えてはおりませんわ。

ト ジェミニ達の話に一同引き寄せられている。

ミニコ そんなものより、今はね、星占いの世の中なんですわよ。

一同 星占い？

ジェミコ そう星占い。ねえねえ、

ト ジェミコ、メーコを引っ張り出し・・・。

ジェミコ  
メーコ  
ジェミコ

あなた、誕生日は何月何日？  
7月4日。  
そおー、7月4日。7月4日ならカニ座ね。カニ座のあなたは、優しいけれど思いこみの強い性格で、一度言い出したら後には引けない性格。どう？ あたっているかしら？  
当たったあるわ。メーコちゃん。

ウサコ  
ミニコ  
ウサコ  
ミニコ

あなたの誕生日は？  
ええーっと4月28日

4月28日なら牡牛座ね。牡牛座のあなたの今週の運勢は、（と本をめくって探し出し）あー、あつたわ、運勢が少しづつ上昇しています。恋の芽生えのチャンスです。もしかしたら素敵な王子様があなたの前に現れるかも：：ですって。

ウサコ  
ワン公  
ジェミコ

うわー、恋の芽生えやって、わたしどうしよう。素敵な王子様ってどんな人かなあ。（完全に舞い上がっている。うれしそう）  
ねえねえ、僕は？ 8月22日やけど。  
ええっと獅子座ね、獅子座のあなたの今日の運勢は、「犬も歩けば棒にあたる。」ですって。気をつけたほうがいいですよ。  
「犬も歩けば棒にあたる」？ なんなんやろ？

ワン公

ト 考え込んで歩いているところで、柱に頭をぶつけてしまう。

ワン公  
ジェミコ  
サルヤン  
一同

痛あ！  
だから気をつけなさいっていったじゃないの。  
うわー、この人らのいうことよう当たるねえ。  
（うんうんとうなづく。）

龍ちゃん  
ミニコ  
ジェミコ

ところで、お前ら何のようがあつてここへ来たんなよ。  
まー、そーでしたわ。忘れてましたわ。ねージェミコさん。  
そうでしたわねー。ミニコさん。

ト 急にかしこまってポーズを取る。

ミニコ  
ジェミコ  
サルヤン

今日は皆様に私たちジェミニの会のお仲間になっていただきたくてここにやってきましたの。  
そうですね、お誘いに上がりましたのよ。  
ジェミニの会って何よ。

ト 少し気取ったようなしゃべり方で、

ミニコ  
ジェミコ  
ミニコ

ジェミニの会と申しますのは、私どもを中心とした、理想の世界を作り出すという会でございますの。  
そうですね。この私どもの会に御入会いただきますと欲しいと思う物は何でも手に入り、悩み事などもなーんにもなくなるという夢のような会でございますのよ。  
そう、その夢のような私どもジェミニの会に、皆様方をお誘いにあがりましたの。

チュウ助  
ジェミニ  
コケコ  
ジェミニ  
チュウ助

欲しいと思うものは何でも手に入るん？  
（「ハイ」というようにうなづく）  
悩み事はなーんもなくなるん？  
（「ハイ」というようにうなづく）  
たとえば？

ジェミコ　あなた、何かほしいもの、ありますか？  
チュウ助　ええと、オレ、チャゲ&飛鳥のCDが欲しいなあ。  
ジェミコ　ハイどうぞ。  
ミニコ　あなたは？  
牛どん　ビーパップハイスクールのビデオがええわ。  
ミニコ　ハイどうぞ。  
ジェミコ　あなたは？  
ワン公　ファミコン。  
ジェミコ　ハイどうぞ。  
あなたは？  
宮沢りえの写真集。  
あら、それはないけど、これは予約券。本屋さんに行けばもらえるわ。（喜ぶドッシン）  
それぐらいのものでしたらすぐ手に入れることができますわ。  
そうです。私もジェミニの会に御入会いただけましたなら、それらのものはすぐあなたの方のようになります。  
お。（と喜ぶ。）  
ただし、ただで差し上げるわけにはまいりませんの。  
ええ、なあんな。お金いるんかよお。ほんだらこれいらんわ。  
いいえ、お金はいりません。  
お金いらんのやったら何がいるんよ。  
私たちがみなさんからいただきたい物は、（振り返る）「虹」ですの。  
虹？  
そう、虹、レインボウ。  
私たちが皆様これにこれを差し上げるかわりに、私たちに、皆様の虹をいただ

猿やん　きたいんですの。  
虹って、言うても、そんなもんほくらもってないで。ねえー。  
（「うんうん」とうなずく。）  
いいえ、虹と申しましたもただの虹じゃございませんの。簡単に言えば、それは・・・『心の虹』とでもいえるかしら。  
こころのにじ？  
そう『心の虹』。皆様の心の中にある虹に関する思いを、私どもにいただきたいんですの。  
でも、そんなもん、どうやってお前らに渡すんなよ。  
簡単ですわ。皆様が、心の中で「渡した」と思ってくださいただで、虹はもう私どものものになりますの。  
どうです皆様、あってもなくてもどうでもいいような虹を、心の中でただ「渡した」と思うだけで、皆様の欲しいものが何でも手に入るんですよ。  
私もジェミニの会にお入りになりませんか？

ト　虎蔵、一同を隅に連れて行き、ひそひそ声で相談を始める。  
虎蔵　おいおい、虹を渡すって思うだけで、何でも手に入るんやお。  
ト　一同、「うん」とうなずく。  
チュウ助　それぐらいで、欲しいもん手に入るんやったら簡単やなあ。  
ト　一同、「うんうん」とうなずく。  
虎蔵　おい、ほんだらジェミニの会とか言うもんにはいろかあ。

ト 一同、「うーん！」と大きくうなずく。  
ト 虎蔵、ジェミニのほうを向いて  
虎蔵 オレ、その会に入る。  
ジェミコ まあ、ありがとうございます。  
チュウ助 おれも。  
ウサコ わたしも。

ト 十二支たちみんなが「入る、入る」と言い出した。

ミニコ それはそれはありがとうございます。それでは、私どもの会員の印に、この  
仮面をお付け下さいませ。  
ジェミコ (カー吉の方を向いて) あなたは？  
カー吉 ボクは……。  
ミニコ あなたもお入りになりませんか？  
カー吉 ボクはいいや！

ト ジェミニ、「まああ」というようなふりをする。

カー吉 ボクは虹が好きや。虹を追いかけてつてあの向こうに行つてみたいんや。  
ミニコ そんなあなた夢みたいなことをおっしゃって……。そんなことをして何に  
なるつて言うんですの？ それよりも、なにか欲しいものを手に入れたほう  
がよっぽど幸せですわよ。

カー吉 ……。  
ミニコ まあ、無理にとは申しませんが……。でもいざあなたもこの会に入るこ

とになりますわよ。きっと。

ト ミネコ、ミネコの存在に気づき。

ミニコ おや？ おやおや？ そこにいるのはミネコさんじゃありませんか。  
ジェミコ まああ、ほんと。ミネコさんですわ。(ミネコの側により)  
お久しぶり  
ミネコ ……。(フンと言うようなふりをする)  
ミネコ ……。  
ミネコ そんなに冷たくなさなくても。  
ミネコ ……。  
まあ、いいわ。あなたとは後でゆっくり。  
では皆様、御入会ありがとうございます。さっそくご希望の品を差し上げ  
ますから、私どもの事務所の方までいらして下さいませ。

ト ジェミニ、皆を連れて去っていく。一同、うれしそうに後に続く。

カー吉 何か変なやつらが出てきたなあ。なあミネコ、あいつらお前のこと知っ  
たあるみたいやけど、あいつらなんにもなん？

ト カー吉、ミネコの方を振り返ると、ミネコは何かにおびえたように震えている。

カー吉 ミネコ……、どうしたんな。おいミネコ。

暗転。



## 第5章 ミネコの混乱

ト ミネコ、何かを探すように空を見上げている。汗をかいているようだ。突然、虹が出た。ミネコ、虹を追いかける。虹、消える。ミネコがっかり。また逆方向に虹が出た。ミネコ追いかける。虹、消える。ミネコがっかり。

ミネコ — あゝあ、もうちよつとやのになあ。

ト ミネコ、座り込んでしまう。

ト ジェミニ現れる。ここでのジェミニはすごい意地悪な言い方でしゃべってくださいネ。

ミネコ ミネコ。

ミネコ (ハッと振り返る。おびえて後退りする。)

ミネコ いなくなっと思ったたら、こんな所に隠れていたのね。

ミネコ ……

ジェミニ どうして私たちの会から逃げたりしたの。

ミネコ ……

ミネコ 黙っていたってわからないでしょう。

ミネコ ほつといてよ。もうあんたらと関わりとうないんやよお。

ミネコ まあ、何でしょうその言葉づかい。私たちのところにいた頃はもっとお上品な言葉を使っていたのに。ねえ。(と、ジェミニの顔を見る)

ジェミニ そうですわ。いつからそんなお下品な言葉を使うようになりましたの。

ト ミネコ、ミネコが持っているスコップに気付き……

ミネコ あら、このスコップ。あなたはまだ虹の根っこを掘るなんて夢みたいなこと

ミネコ 考えているの。

ミネコ もう、ほんとにほつといてよ。私は、虹の根っこ掘ってみたいんやよ。あんな

たらに虹を取り上げられとうないんやよ。

ジェミニ また夢みたいなお話をおっしゃって。

ミネコ そうですわよ。そんなできもしないこといつまでも考えてたってどうしよう

もないでしょう。

ト ミネコ、たまりかねたように、

ミネコ どうしてできんって言い切れるんよおッ!

ト ミネコ、怒ったように答え返す。

ミネコ じゃあできるって言うのッ! あなた今まで何回虹を追いかけたの?

ト 何十回虹を追いかけたの? そのうち、一回でも虹を捕まえることが、

ト できたことあるって言うのッ!

ト ミネコも怒ったように答え返す。

ト ミネコはミネコの叱責に返事ができない。

ト そこへジェミニが諭すように話しかける。

ジェミニ ねえミネコ。そんなできもしないことは忘れて、もっと楽に生きましょう

よ。虹なんか無かったって他にも面白いものがたくさんあるわよ。そうして

いるうちに、虹のことなんかすぐに忘れてしまわよ。ねっ。

ト そうよミネコ。もう一度ジェミニの会に戻ってらっしゃい。ジェミニの会に

いけば、楽しいことばかり。イヤな事も悩み事もすぐに忘れてしまえる。

ト ね、もっと楽に生きることができるようよ。

ト ね、ここに仮面を置いておくわ。あなたがつけていたものよ。ようく考え

てみなさい。

ト 待ってるわよ、ミネコ。

ト 待ってるわよ、ミネコ。

ト 待ってるわよ、ミネコ。

ト 待ってるわよ、ミネコ。

ト 待ってるわよ、ミネコ。

ト 待ってるわよ、ミネコ。

ト 待ってるわよ、ミネコ。

ト ジェミニたち退場。  
ト ミネコ何かを考え込んでいるようだ。

「いろんな思いがこみ上げてくる。  
そして二つの相反する思いがミネコの心を引き裂こうとする。

「イヤッ。虹のこと忘れてしまいたいとうない。

虹の根っこ掘るんやもん。  
宝物見つけるんやもん。  
ちっちゃい頃からの夢やったんやもん。  
やっどジェミニのところから逃げ出して来たんや。  
今度こそ絶対虹を捕まえるんや。  
でも……

あいつらの言う通り、今まで何回も虹を追いかけてきたのに、一回も虹を捕まえることできん。  
どんなに頑張っても、どんなに走っても、どんなに叫んでみても……、  
いつつても虹は捕まえる前に消えてしもた……。  
やっぱりあかんのかなあ？  
やっぱり夢なんかなあ？  
もうしんどい。  
虹が消えてしまいうたんびにあんな辛い思いをするのもうイヤや。」

どうしたらええん？ ねえ、わたしどうしたらええん？

ト ミネコは頭を振り乱し、抱え込みながらうずくまってしまふ。

ト ふと頭を上げると、そこにはジェミニ達の残していった仮面が……。  
ミネコは仮面を手に取りじつと見つめている……。

ト そして……。

暗転

## 第6章 人々の亦夜谷

ト カー吉、祠の前で何かお祈りをしているようだ。

ト そこへ十二支の面々が次々とやって来る。仮面を付けている。  
まず馬之助。

カー吉 おおい、馬之助。どこ行きやるん？

馬之助 ふん、べつに。

ト 東京弁の馬之助。カー吉を無視して通り過ぎる。

カー吉 ——— なんなあいつ、気分悪いなあ。

ト 今度は牛ドン、チュウ助がやって来る。

カー吉 ——— おおい、おまえらどこへ行くん？

ト 二人、カー吉を見るが何も言わずに通り過ぎる。

カー吉 ——— なんなよあいつら。

ト 今度はウサコ、ニヨロニヨロ、メーコ、コケコが来た。

カー吉 ——— あ、おおい。

4人

フンツ。

ト この4人も同じだ。無視して通り過ぎてしまった。

カー吉

あいつらまでかよ……。全くあいつらこの頃おかしいな。あのジェミニとか云うやつらが来てからや。あれからなんかあいつら変わってしもたわ。

ト カー吉、なんだか寂しそうにしている。そして、あきらめたかのようにまたお祈りを始めた。  
ト そこへ虎蔵たちがやってきた。

カー吉

おい虎蔵、タツちゃん、サルやん、ワン公、ドッシン……。おい、おいって言いやるやないか。  
君イ、うるさいじゃないか。そんなに怒鳴らなくても聞こえているよ。

虎蔵

ト 虎蔵、バリバリの東京弁である。

カー吉

聞こえたあるんやったら返事ぐらいせえよ。ほんで、なんなん？その変な言葉使い？ もつとふつうに話しせえよ。

ドッシン 僕たちは普通に話してますよ。君こそその汚い言葉、なんとかなんないの？  
カー吉 汚い？

サルやん そうだよ。野蛮だよ。  
カー吉 野蛮？

ワン公 僕たちのように上品な言葉を使ってくれたまえよ。  
カー吉 上品？ おいおい、おまえらどうしたんなよ。

タツちゃん

ところで君、そんなところで何してるの？  
ボクか、ボクはここでお祈りしてたんや。

カー吉

お祈り？ この古ぼけた祠にかい？  
うん、そうや。

ドッシン

願い事があるなら、こんな古ぼけた祠の神様なんて、あてにはなんないよ。  
ジェミニ様にお願いすればいいんだ。

サルやん

そうだよ。ジェミニ様にお願いするといいよ。  
おまえなに罰当たりなこと言いやるんな。怒られても知らんぞ。それで君、

カー吉

一体何をお願いしてたんだい。

ト カー吉、空を見上げて彼方を指さす。

カー吉

おい、ほらまた虹出たあるわ。神様にな、あの虹を捕まえさして下さいって  
お願いしてたんや。

ドッシン

虹？ 虹ってなんだい？

タツちゃん

そんなものどこにあるんだい？  
なにアホなこと言やるんなよ。ほらあそこに出たあるやないか。

ト カー吉、彼方の空を指さす。

サルやん、前に出てカー吉の指し示す方向を眺めながら探すふりをする。

サルやん

どこにあるんだい？ そんな物見えないよ。なあみんな。  
そうだよそうだよ。

カー吉

おいおいちよつと待ってよ。冗談ばかり言うなよ。おまえらにあの虹見え

ワン公  
カー吉

んの？ この間おまえらも一緒に見て「綺麗やなあ」て言うたやないか・  
・。おまえらホンマにジェミニとか云うやつら来てから変わってしもたな  
あ。虹も見えんのかよ。  
冗談はそっちの方だよ。虹なんて物はこの世に存在しないよ。  
あるやないかあそこに。はっきりと見えたあるやないか。ボクはあの虹捕ま  
えてみせるんや。

虎蔵

何馬鹿なこと言ってるんだよ。ないものをどうやって捕まえるって言うんだ  
よ。夢みたいなこと言ってるなあ。そんなことを言ってるのは君一人ぐらい  
のものだよ。

カー吉

違うよお！ ボク一人と違う！ ミネコと約束したもん。一緒に虹を捕まえ

サルやん

に行くってミネコと約束したもん。

ワン公

ミネコと・・・？ ミネコはもう・・・。

おいッ！

ト ワン公、サルやんをたしなめる。何か隠し事があるようだ。

カー吉

なんなよ。ミネコがどうかしたんかよ。  
な、なんでもないよ。

サルやん

ト サルやん、あわててごまかす。

ワン公

まあ、ミネコに会ってみるとわかるよ。

虎蔵

じゃあ僕たちはこれで失敬。

一同

失敬！

ト 一同、退場していく。

カー吉

おい、ミネコがどうしたんなよ。おいッ。おいッ。

ト

一同、かまわず退場していく。カー吉、一人取り残される。  
考え込んでいたが、何か思い当たることがあったのか、急に一目散に走り出した。

暗転。

## 第7章 心の虹

ト 舞台には再びミネコが。

ミネコはうずくまったままだ。手にはあの仮面を持っている。

ト カー吉がやって来た。休みもせずに走り続けてきたのか、息が切れている。

カー吉 ミネコ！ はあーはあーはあー。ここにおったんか。

ミネコ カー吉君……。

カー吉 あーよかった。おまえなんにもなかったんか。あいつらがなんか意味ありげなこと言うから、てつきりおまえになんかあったんとちゃうかって……。

ト 言いかけてカー吉、ミネコの手の仮面に気づく。

カー吉 ミネコ！ お前その仮面……。お前まさか……。

ミネコ ごめんね、カー吉君。

カー吉 「ごめんね」ってどういうことなんよ。その仮面……、

お前まさかジェミニの会に……。

ミネコ ……。(ト カー吉から顔をそらす)

カー吉 おい、お前本気なんか？ ジェミニの会へ入ってしもたら、もう虹見えんよ

うになってしまふんやぞ！

ミネコ 知ったある。

カー吉 ほんだらなんで……？

ト ミネコ、カー吉の問いの答えに迷っている様子。下を向いている。やがて意を決したかのように……。

ミネコ

わたしね、ジェミニの仲間やってん……。でもね、どうしても虹のことが忘れられなかったから……。逃げて来たん……。あいつらはね、ああやってええ物と交換したるっていうては私たちの心から虹を奪っていこうとするんや。そして、「心の虹」を奪われた人たちには、もう虹は見えんようになつてしまふんや。虹があつたことすら忘れてしまふんや。

カー吉 ほんだらなんでえッ！

ミネコ なんとかして虹を捕まえたかった……。

虹の根っこ掘って宝物見つけてみたかった……。

でも、いくら追いかけても、虹は捕まらん……。

どんなに頑張つても、どんなに走つても、どんなに叫んでみてもいっつも虹は、捕まえる前に消えてしまふんや……。

やっぱりあかんのかなあ……？

やっぱり夢なんかなあ……？

カー吉 そんなことないよ。あきらめるなよ。約束したやないか！

ト ミネコ、カー吉の言葉に、うつむいたまま首を振る。

ミネコ

もう疲れた……。虹が消えてしまふたんびにあんな辛い思いするの、もうイヤや……。もう楽になりたい。

ト そう言うとミネコは仮面を付けようとし始める。

カー吉 おいミネコやめえ。

ト ミネコ、かまわず仮面を付ける。

カー吉 — ミネコーツ！

ト カー吉の叫び声とともに、ミネコ倒れる。  
カー吉、ミネコの側に駆け寄る。

カー吉 — おい、しつかりせえ。おいッ！

ト カー吉、ミネコを抱きかかえるようにして呼び続ける。

ジェミニの声 — あなたもいずれそうなるのよ。

ト ジェミニ現れる。

カー吉、ジェミニの登場で立ち上がり、あとずさりする。

ミニコ

虹を捕まえるなんて夢みたいなこと考えてないで、もっと楽に生きなさいよ。出来もしないことをいつまでも心の中に抱え込んでいても、その思いに押しつぶされるだけなのよ。ミネコのように。

ト いつの間にか仮面をかぶった十二支達がカー吉の周りに現れ、

ジリッジリッとカー吉を取り囲もうとしている。

ジェミコ

世の中にはもっと楽しいことがたくさんあるのに、どうしてわざわざ自分から苦しい道を進もうとするの？

ミニコ

もっと楽に生きなさいよ。

ジェミコ

虹なんか捨ててしまいなさいよ。

ミニコ

もっと楽に生きなさいよ。

ジェミコ

虹なんか捨ててしまいなさいよ。

ト 仮面をかぶった十二支達、次々と「もっと楽に生きろ」「虹なんか捨ててしまえ」

「バカバカしい」「夢みたいなこと言わないで」などと、口々に言いながらカー吉を

取り囲み、追いつめていく。だんだん声が高くなりとうとうカー吉を追い込んだその時。

カー吉 — やめろーッ！

ト カー吉、体から振り絞るような声。体がわなわな震えている。

カー吉の叫び声で皆は身を引く。

カー吉 — やめてくれよお。

ト 声と共に、力が抜けたように膝が折れる。

カー吉の顔は、悲しさと切なさど苦しさと歪んでいる。

カー吉

夢みたいでもええやないか……。夢みたいやからって、それを信じること出来なんだから、いったいボクらに何が出来るって言うんなよ。最初からあきらめたあたり、なんにも出来んやないか。そやのになんでえよ。なんでこうなるんなよおーッ！

ト 叫び声と共に床に突っ伏し、拳で床を叩きつける！

沈黙……。

ト 少し間をおいて、さつきから倒れたままだったミネコがゆっくりと起きあがる。

ミネコは彼方の空を指差している。  
カー吉、ミネコに気付く。

カー吉 — ミネコ？ ミネコ、どうしたんな？

ト カー吉、ミネコの指差す方向を見る。  
するとその指先の彼方の空には、大きな大きな虹が静かに浮かび上がってくる。

カー吉 — 虹や！・・・ミネコ、お前、まだあの虹が見えるんか？  
ミネコッ！

ト さつきから見守っていたミニコが慌てる。

ミニコ — どういうことなのミネコ？ あなたその仮面を付けているのよ。虹はもう私  
たちが奪い取ったのよ。なのにどうして・・・？

ト ミネコ、ミネコの声が終わらぬうちに自ら仮面をむしり取り、床にたたきつける。  
そして・・・。

ミネコ — やっぱイヤッ！ 虹を忘れるのらイヤッ！  
カー吉君、やっぱ私も虹捕まえに行くッ！  
カー吉 — そうや、そうやよミネコ。あきらめたらあかんのや。ボクな、なんかだんだんわかってきたんや。「もっと大切なもの」「見つけなければならぬ何か」って何なんか、だんだんわかってきたんや。きつとそれはな、心に虹がなかったら見つけられんもんなんや。まだそれが何なんか、はつきりわから

---

んけど、でもボクは見つけてみせる。国語の授業で習ったやろ？ 「もともと地上に道はない。歩く人が多くなればそれが道になるのだ」って。でも、道がないんやったらボクが最初に切り開いて歩いて行っただ。あいつらの目に、もう一度虹が見えるように、ボクは虹を捕まえて見せるッ！

---

ト カー吉の叫び声と共に音楽。

カー吉はスコップを拾ってミネコに渡す。

二人は虹を見上げる。

やがて二人は、虹に向かって歩き出す。

ト 十二支たちは虹を見上げたままだ・・・

ト そのうち虎蔵がゆっくりと仮面をはずす。

そして二人の後を追いかける。初めはゆっくり、次第に駆け足になって・・・。

ト 今度はドッシンとタツちゃん、同じように走り始める。

そしてサルヤン、ワン公、馬之助、ウサコ、ニヨロニヨロ、メーコ、コケコ、チュウ助、牛ドン、みんなが次々と仮面をはずし、二人の後を追いかけて走り始める。

ト その後ろ姿を見送るジュミニ。とうとうあきらめたかのように肩を落として去っていく。

幕

フィナーレ

ト 音楽。音楽の高まりと共に、一同舞台まで駆け上がる。(ダッシュ！)

カー吉

本日もご覧いただきました「カラスが見た虹」いかがでしたでしょうか？

初めに役者紹介をさせていただきます。

ネズミのチュウ助 ( )、牛の牛ドン ( )

虎の虎蔵 ( )、兎のウサコ ( )

龍のタツちゃん ( )、蛇のニヨロニヨロ ( )

馬の馬之助 ( )、羊のメーコ ( )

猿のサルやん ( )、鶏のコケコ ( )

犬のワン公 ( )、猪のドッシン ( )

長老 ( )、カラス2 ( )

カラス3 ( )、カラス4 ( )

カラス5 ( )

そして最後にカラスのカー吉を演じた ( ) !

このお話はこれで終わりではありません。

そして、決してボク達だけのお話じゃありません。

「見つけなければならぬもの」とは何なのか？「心の虹」とは何なのか？

この答えを追い続け「ボク達の物語」は、まだまだこれからも続いて行きます。練習不足でお見苦しい点もたくさんあつたと思いますが、最後までご

覧いただき本当に有り難うございましたーッ！

ありがとうございましたーッ！

ミネコ  
カー吉

みんな

幕